

透析クリニックにおける BCP策定

(医)援腎会 すずきクリニック¹⁾

(医)援腎会 あさか野泌尿器透析クリニック²⁾

○人見 友啓¹⁾、鈴木 翔太¹⁾、本田 周子¹⁾、新田 浩司²⁾
鈴木 一裕¹⁾

日本血液浄化学会 COI 開示

筆頭発表者名： 人見 友啓

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある
企業などはありません。

【はじめに】

- 2011年3月11日、マグニチュード9.0 の東日本大震災が発生
- 福島県郡山市にある当院も被災
- 当時は災害マニュアルしかなく、患者を安全に避難させることはできたが、復旧に対するマニュアルがなく、焦りと混乱の中で業務を行っていた
- 被災後、災害対策の見直しは行ったが、未だ課題は多い

被災直後の透析室



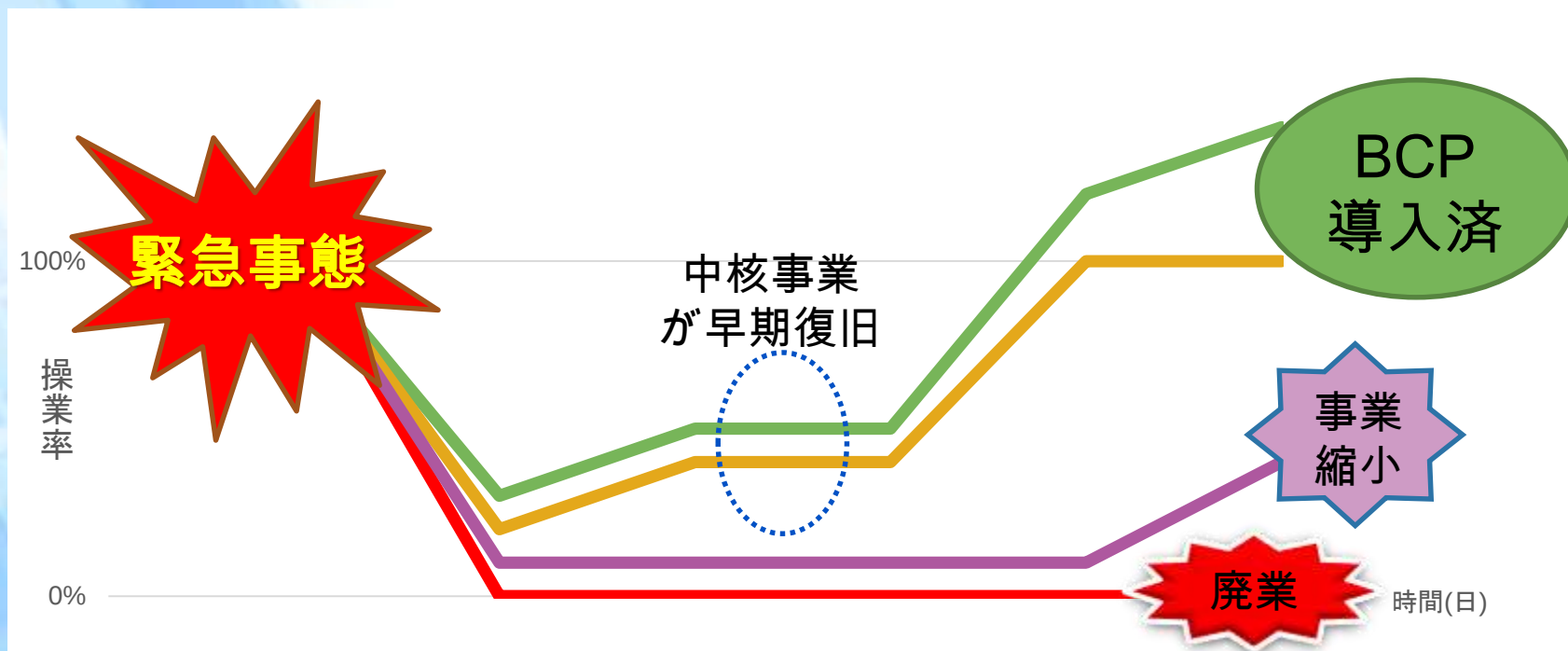
【目的】

- 東日本大震災を契機に様々な分野の企業が事業継続計画(以下、BCP)の策定を勧めている。医療機関においても、総合病院などの中核病院は復旧までの速度を求められることが多いため、BCPの策定が進められてきた。
- 一方で、診療所であっても透析施設は被災後の事業継続が強く求められる医療機関である。
- 今回、当院でも災害発生後の透析継続を目的としたBCPを作成したので、その一部を紹介し、策定後の課題を検討した。

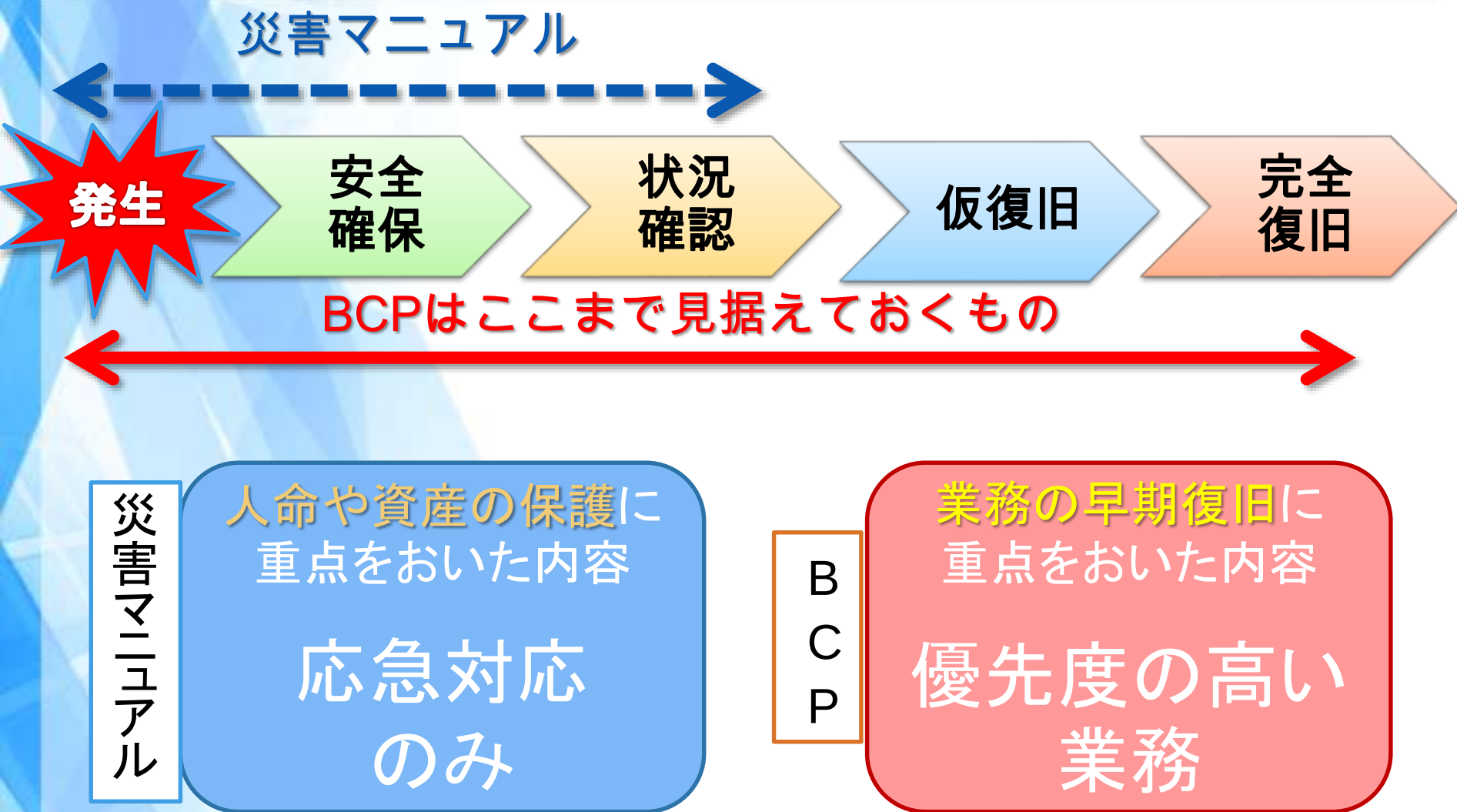
【BCPとは】

事業継続計画 (Business Continuity Plan)

- 企業・病院が自然災害・大災害・テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のこと。



【災害マニュアルとの違い】



【制作ステップ】

基本方針の設定

業務影響度分析

対応策と発動基準

BCPの作成

教育・訓練・見直し

医療法人援腎会 すずきクリニック

事業継続計画

平成 28 年 11 月 2 日 作成
平成 年 月 日 改定 (第 版)

【制作ステップ】

基本方針の設定

業務影響度分析

対応策と発動基準

BCPの作成

教育・訓練・見直し

(P1)

BCPの基本方針

・当社においてBCP(事業継続計画)を策定・運用する意義・目的とともに、当社の特性を踏まえ、緊急時に事業継続を図る上で要点となり得る事項は以下のとおりである。

1. BCP策定・運用の意義・目的:

①患者にとって(信用):

生命維持のため透析の安定供給支援をする。

②従業員にとって(雇用):

従業員ならびに家族の安定雇用を確保することができる。

③地域にとって(活力):

地域生活ならびに早期復旧に貢献することができる

④BCP発動基準:

郡山市において震度5弱以上の地震が発生した場合、特別警報が発動された場合も同様

2. 緊急時に事業継続を図る上での要点(意識すべき事項):

①「企業同士の助け合い」という観点で:

市内・県内・県外の支援をしてくれる提携病院のリストの作成。

②「商取引上のモラル」という観点で:

生命維持のため最低限の透析を維持する。

③「地域への貢献」という観点で:

地域生活ならびに早期復旧に貢献することができる

④「公的支援制度の活用」という観点で:

災害時には国の支援策の活用を検討する。

3. BCP及び災害計画の更新時期: 毎年 6 月(年 1 回更新)

※顧客・在庫・仕入先に大幅な変更があった場合、商品・サービスの変更・追加、生産ラインの組み替え、人事異動等が合った場合は見直しの必要性を検討し、必要があれば即座に変更内容をBCPに反映する。

【制作ステップ】

基本方針の設定

業務影響度分析

対応策と発動基準

BCPの作成

教育・訓練・見直し

水質管理
業務

- ET/生菌検査
- 残留チェック
- 洗浄 etc...

透析業務

- プライミング
- 穿刺
- 返血 etc...

Dr業務

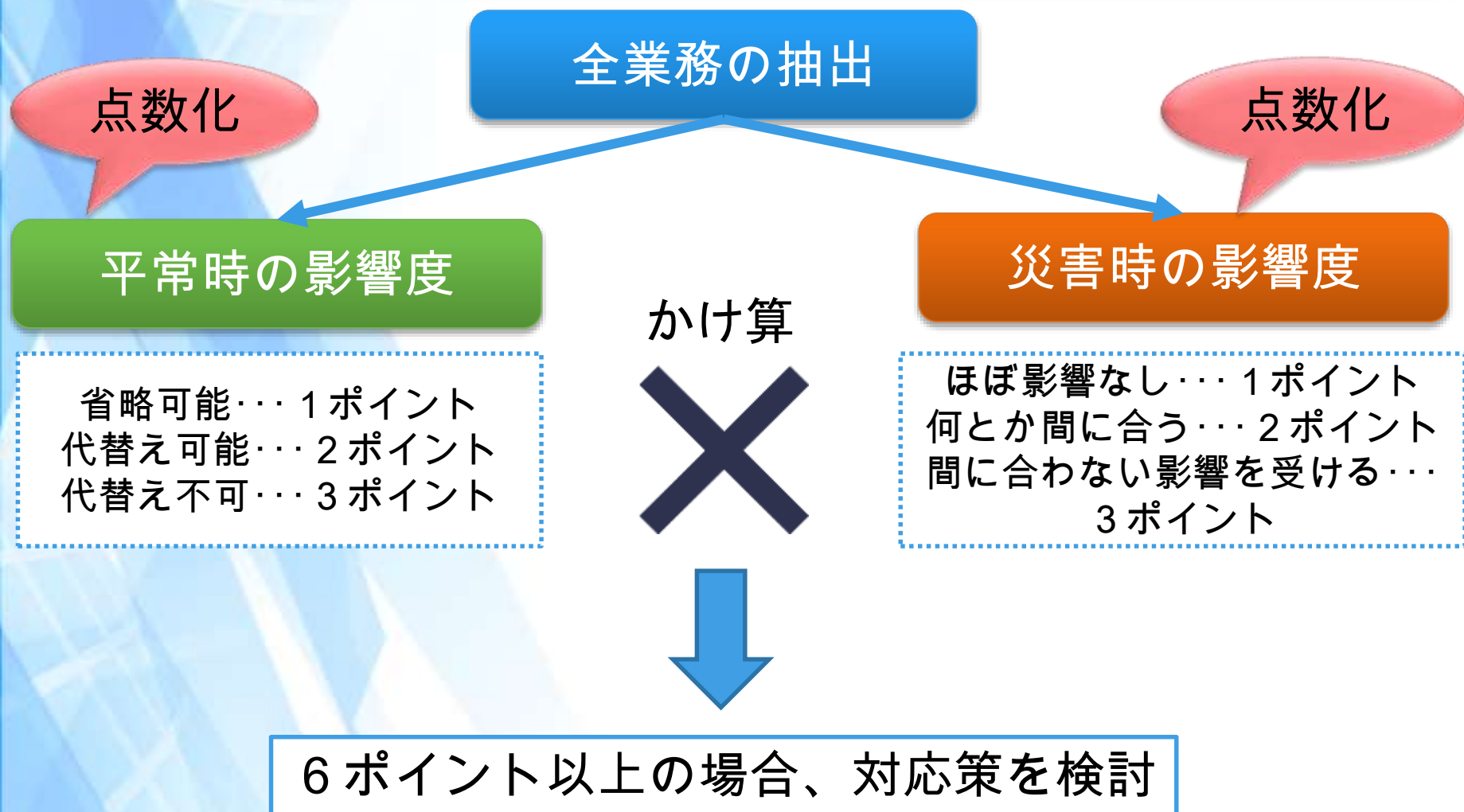
- 定期・臨時処方
- 回診
- 診療情報作成 etc...

事務業務

- レセプト
- 診療報酬取り込み
- 現金管理 etc...

〇中継業務(人工透析)の業務に必要な市内の重要業務 (担当者のすべてに注意)			
業務項目	業務内容	業務内容	業務内容
水質管理業務	ET/生菌検査	残留チェック	洗浄 etc...
透析業務	プライミング	穿刺	返血 etc...
Dr業務	定期・臨時処方	回診	診療情報作成 etc...
事務業務	レセプト	診療報酬取り込み	現金管理 etc...

【業務影響度分析方法】



【制作ステップ】

基本方針の設定

業務影響度分析

対応策と発動基準

BCPの作成

教育・訓練・見直し

対応策 (業務影響度6ポイント以上)

- ETRFの確保(30台分)
- プレフィルタ・カーボンフィルタの確保
(各2本)
- ダイアライザの確保(2週間分)
- 高K血症治療薬の確保
(薬局の在庫を多くしてもらう)
- 透析回路の複数社採用
- 協力病院との連携 など

【制作ステップ】

基本方針の設定

業務影響度分析

対応策と発動基準

BCPの作成

教育・訓練・見直し

大規模災害の被災度(BCP策定基準)

建物の状況

1.7%にあたる建物が破損
道端に建物の残骸が散乱

電力の復旧
期間

8日間94%の普及

上水道の復旧
期間

3週間で80%。1か月で90%普及

社員出社率

60%(被災当初)

●BCP発動基準

郡山市において震度5弱以上の
地震が発生した場合

【制作ステップ】

基本方針の設定

業務影響度分析

対応策と発動基準

BCPの作成

教育・訓練・見直し

災害対策本部グループ別初動対応リスト

必要に応じて追加・削除等の修正をする。

●医師グループ

活動	担当者・責任者
災害対策本部の設置	
外部との連絡	
メディア対応	
医師間での連絡 (MCA無線による)	
透析可否の決定	

●看護師グループ

活動	担当者・責任者
透析可否のお知らせ (災害伝言ダイヤル)	
患者の状況確認	
帰宅の手配	
来院患者の避難	

●臨床工学部グループ

活動	担当者・責任者
来院患者の避難	
施設・設備の被害状況確認	
透析スケジュール	
透析可否の判断	

●事務グループ

活動	担当者・責任者
搬送活動 (119の連絡等)	
患者問い合わせ対応	
緊急必要物資 (食料等) の調達	

【制作ステップ】

基本方針の設定

業務影響度分析

対応策と発動基準

BCPの作成

教育・訓練・見直し

- BCPは策定して終了ではなく、スタッフに周知・教育を定期的に行うことが非常に重要であり、それらを継続していくことがBCP最大の目的である。
- 災害対策マニュアルと共に見直しを年1回行う。
- スタッフとの連絡手段の確立。
(メールや伝言ダイヤルを利用)

【BCPカードの作成】災害対策携行カード

表面

クリニックへの安否確認基本ルール

【安否確認を行う基準】

震度5弱以上の地震及びそれに準ずる規模の災害が発生した場合または居住地域に上記災害が発生した場合は安否及び状況を連絡する。

【安否連絡手段】

- ① 災害伝言ダイヤルのメルアドから携帯メールに一齐送信
- ② 安否及び状況を返信
- ③ 災害伝言ダイヤル171で伝言再生し状況確認

安否確認方法

下記内容を番号で回答する(入力は4桁)

本人の安否	1 無事	2 ケガ	
家族の安否	1 無事	2 ケガ	
自宅状況	1 無事	2 損壊避難なし	3 損壊避難
出社可否	1 可能	2 不可能	

メール

災害伝言ダイヤルのメルアドへ回答数字を
宛名欄に記入し送信する。(例:1111/1222など)

伝言ダイヤル

171→2または2→2→
個室センターの電話番号を市外局番から入力→伝言再生

災害対策携行カード

職員常時携行

医療法人 援腎会

本部 すずきクリニック

住所/郡山市富久山町久保田字伊賀河原12

電話/024-925-0860

上司連絡先(各自記入)

個室/024-

FAX/024-

裏面

有事の行動要領

1. 行動の優先順位

- ① 生命の安全確保
- ② 透析の継続

2. 具体的な行動要領

(1) 自宅等にいる場合 (帰宅後も含む)

- ① 自分、家族の身の安全を確保
- ② 安否状況の連絡
- ③ 職場の情報を得る
- ④ 自宅待機(状況による)
- ⑤ 可能であれば出社

管理職、MEは出社他スタッフは指示により出社

(2) 就業中

- ① 自分の身の安全を確保
- ② 患者の安全の確保と避難
災害対策マニュアルに従い避難をする
- ③ 職場の状況確認
- ④ 自宅、家族の安否確認→状況を上司に報告
- ⑤ 情報収集
災害の規模、地域の状況について情報収集
社会的インフラの状況確認
- ⑥ 退社の検討・実施(災害対策本部が検討、指示)
- ⑦ 地域の安全確保に協力(任意)

(3) 外出中・通勤中

- ① 自分の安全を確保
交通機関利用中は係員の指示に従う
車の運転中は安全な場所に車を止める
野外にいる場合は建物・壁から離れ落下物、転倒物に注意する
- ② 安否連絡
- ③ 情報収集
- ④ 出社または帰宅(状況により判断)
※帰宅については帰宅までの安全を確認したうえで判断する

注意/緊急時に迅速な初動対応が出来るよう各自必ず常時携帯のこと



【災害時緊急連絡訓練】メールでの安否確認

安否確認方法

下記内容を番号で回答する(入力は4桁)

本人の安否	1 無事	2 ケガ	
家族の安否	1 無事	2 ケガ	
自宅状況	1 無事	2 損壊避難なし	3 損壊避難
出社可否	1 可能	2 不可能	

メール

■■■■のメールアドレスへ回答数字を
題名欄に記入し送信する。(例: 1111 / 1222 など)

伝言ダイヤル

■■■■の電話番号を市外局番から入力→伝言再生

新規メール

題名
例) 1111

宛先

本文
(本文なし)

送信



タイトルに入力することで、一斉に確認が可能

【災害時緊急連絡訓練】伝言ダイヤル

安否確認方法

下記内容を番号で回答する(入力は4桁)

本人の安否	1 無事	2 ケガ	
家族の安否	1 無事	2 ケガ	
自宅状況	1 無事	2 損壊避難なし	3 損壊避難
出社可否	1 可能	2 不可能	

メール

■■■■のメルアドへ回答数字を

■名欄に記入し送信する(例:1111-1000など)

伝言ダイヤル

171→2または2# →

個室センターの電話番号を市外局番から入力→伝言再生

※プッシュボタン式電話機とは
数字ボタンを押すごとに「ピッ・
ポッ・パッ」といった音が聞こえ
る電話機のことです。

1 7 1

ガイダンスが流れます。

2

ガイダンスが流れます。

被災地の方はご自宅の電話番号を
被災地以外の方は被災地の方の電話番号を
市外局番からダイヤルしてください。

0 2 4 -

ガイダンスが流れます。

回転ダイヤル式電話機の方

ガイダンスが流れます。

プッシュボタン式電話機の方

1 #

ガイダンスが流れます。

再生

【BCPを作成してみて～スタッフの感想～】

- 災害対策を経営の視点からも考えられた。
- 避難するための対策ではなく、透析治療を継続させるために作成する必要性が分かった。
- 災害対策は、中核事業の復旧を目標にする事を理解した。
- 業務の流れを再確認することで、作業効率改善に繋がった。
- 新たな試みとしては
 - ① 交通費を現物支給(ガソリン)とし、地元の燃料会社と提携
 - ② 飲料水の確保(1人3L/day) ⇐ ウォーターサーバーの在庫を増やす
 - ③ 高K血症治療薬の備蓄を採用 ⇐ 薬局の在庫を多くしてもらう

【考察】

- 今回作成したBCPは、災害発生から通常状態に復帰するまでの対策のみならず、透析施設に勤務する医療従事者の安定雇用までを想定していた。
- このことは職員の災害対策への意識を高めると共に、不測の事態における不安を軽減できることが示唆される。
- 今後は、作成したBCPを元に災害訓練を行い、定期的な見直しを継続していきたい。

【結語】

- 災害発生後の透析継続と早期復旧の為に、透析施設でのBCP策定は有用だと思われる。